



No. 180

Web-site <http://entropy.ac/>

2013年10月18日

エントロピー学会

## 2013年秋の研究集会のご案内

# 巨大市場・巨大技術にどう対峙するか ～ エントロピー論の果たす役割 ～

本年度の秋の研究集会は、山肌色づく季節に京都の地にて催す予定です。皆さんの積極的なご参加を期待します。また、1日目の午後から本年度の第2回世話人会を開催します。世話人会は会員であれば、誰でも参加して意見を述べることができますので、奮ってご参加ください。

【日 時】 2013年10月26日(土)、27日(日)

【会 場】 京都精華大学 清風館  
詳しくは京都精華大学の WebSite をご覧ください。  
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/about/access/>

【参加費】 1日目 無料  
2日目 1,000円(会員) 1,500円(会員外) 500円(学生・院生)

### 【プログラム】

■第1日目 10月26日(土) ※会場となる教室は当日ご案内します。

13時00分 から 16時00分	●2013年度第2回世話人会 ※会員の方はどなたでも参加できます。
16時20分 から 18時20分	●プレシンポジウム「エントロピー学会の存在意義を問い直す」 話題提供：平井孝治(会員、元立命館大学) 司会：山田國廣(会員)
18時40分 から	●懇親会 会場：学生食堂レアータ 会費：3,000円程度

## ■第2日目 10月27日(日) ※会場となる教室は当日ご案内します。

10時00分 から 12時00分	<p>●第Ⅰ部 「TPPの問題点を問う」</p> <p>話題提供：河宮信郎（会員、元中京大学） 関良基（拓殖大学）</p> <p>司会：和田喜彦（会員）</p> <p>&lt;河宮信郎さん発言要旨&gt;</p> <p>環太平洋パートナーシップ協定（TPP）は、「入らないと村八分」と威すが、「入れば最後、骨までしゃぶられる」という「多国間」通商協定である。通商戦争の勝者は「絶対優位」産業が存在する国・地域に予め決まっている。実体経済なら「労働・環境ダンピング」を徹底できる国・地域、金融経済では高リスク「ジャンク債」を大量に組成できる国・地域である。リカード的「比較優位」での相互発展・貿易互惠という説明は、”Race to the bottom”の偽装にすぎない。このことをまず明確に確認しておく必要がある。</p> <p>&lt;関良基さん発言要旨&gt;</p> <p>「TPPと自由貿易の神話を解体する」</p> <p>自由貿易を肯定するリカードやヘクシャー・オリーの貿易モデルは、多くの非現実的仮定を積み重ね、非現実的結論を導き出している。本報告では、工業製品と物の財としての性質の差異—供給面での収穫逓増と収穫逓減の差異、需要面での格弾力性差異など—に焦点を当てつつ、既存の貿易モデルの誤謬を検討する。その上で、自由貿易こそが環境破壊と失業の増加と飢餓を誘発する原因であることを明らかにし、関税の必要性と国際貿易のあるべき姿を展望する。</p>
12時00分 から	●昼食休憩
13時00分 から 15時00分	<p>●第Ⅱ部 「原発などの巨大技術を問う」</p> <p>話題提供：篠原孝（会員、衆議院議員） 朴勝俊（会員、関西学院大学）</p> <p>司会：川島和義（会員）</p> <p>&lt;篠原孝さん発言要旨&gt;</p> <p>「原発廃止で世代責任を果たす —輸出禁止で非核四原則を—」</p> <p>日本は原爆による被爆、原発事故による被曝の二重のヒバク国であり、原発にも核兵器にも最も慎重にならなければならない国である。事故の収束もままならないのに、再稼働を急ぎ、輸出しようとするのは、著しくモラルに欠ける恥ずかしいことだ。原発輸出は核の拡散につながるばかりでなく、輸出先の国民をも福島県と同じ危険に晒すかもしれない。核兵器廃絶に向けてリーダーシップを発揮するとともに、もっとも襟を正していくために、日本は非核三原則に原発輸出禁止も加えて、非核四原則を宣言していくべきである。</p>
15時10分 から 17時10分	<p>●一般講演（2会場予定）</p> <p>◎「韓国の協同組合法制の前進とソウル市の画期的政策」</p> <p>&lt;講演者&gt; 丸山茂樹</p> <p>&lt;要旨&gt; 韓国では日本以上に格差社会化を激しく軋みが激化している。そ</p>

の中で社会的企業育成法、協同組合基本法が制定され、特にソウル市では条例の制定、協同組合都市ソウル基本計画を定め実践している。その概要と意義を報告する

#### ◎ 『『財政危機』について』

<講演者> 桂木健次

<要旨> 長期国債は10年ルールで、そのうち日本銀行が資産に買いオペしている分は「乗換え」で政府のキャッシュフロー向けのTDB借換債になる。その分量を上回る赤字国債が年々発行されているので、それは市場向け(大半は銀行が運用資産に買上げ)発売されるからそうなのであって、その一部を日本銀行が無利子で直に買上げ(引受)すれば、その分は政府債務積み上げでなく「政府歳入(税外収入)」になって、政府債務は日本銀行での乗換などによる償還で漸次減少していくことが可能である。

#### ◎ 「農地における太陽光発電事業の課題と可能性について」

<講演者> 中村修、野尻暉、塩屋望美

<要旨> 日本における耕作放棄地は40万haを越えて増加中である。TPPが導入されれば、耕作放棄地はさらに増えることが予想される。そこで農地における太陽光発電の可能性と課題について報告する。輪番停電の時にみられたように、3月でも気温が下がれば停電の可能性が高まる。電力の多くが低質一室温に近い熱需要、のために用いられている現状を踏まえ、迂回生産(資源浪費)的ではない再生可能エネルギー拡大戦略を提示する。

#### ◎ 「循環施設と処理施設の最適配置に関する検討」

<講演者> 中村修、塩屋望美、野尻暉

<要旨> 日本の人口は2050年には9500万人にまで減少すると予測されている。なかでも規模の小さい自治体、農山村は40%以上の減少が予測されている。人口減に伴う税収の減少も予測される中、多くの自治体ではごみ処理、し尿処理などの施設には過剰な投資が続いている。その一方で、資源循環の取り組みはなかなか進んでいない。そこで、循環施設、処理施設の最適配置に関するいくつかの考え方、提案をおこなう。

#### ◎ 「原子力市民委員会の活動について」

<講演者> 井野博満

<要旨> 今年4月発足した原子力市民委員会(座長:船橋晴俊法政大学教授)は、10月7日に「脱原子力政策大綱中間報告:原発ゼロへの道—新しい公論形成のための中間報告」を発表する。序章、1章:福島原発事故の被害の概要と「人間の復興」、2章:放射性廃棄物の処理・処分、3章:原発ゼロ社会を実現する行程、4章:原子力規制はどうあるべきか、より成る。来年3月までに、全国各地で様々な人たちと意見交換を重ね、市民委員会の名にふさわしい政策提言の実現をめざしている。エントロピー学会での鋭いご批判を期待する。

**■お知らせ****●秋の研究集会**

一般講演での講演者を募集しています。20分程度と短い時間ですが、常日頃活動なされていることの報告や研究成果の発表の場としてご活用ください。一般講演を申し込まれる方は、①講演者氏名、②講演題目、③発表要旨を明記の上、次の方法にてお申し込みください。

<応募先>

メールの場合：福本敬夫 宛 (fukumoto@chem.sci.osaka-u.ac.jp)

郵送の場合：〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1

大阪大学大学院理学研究科化学科 福本敬夫 宛

**●会費の納入について**

エントロピー学会では、会費納入率の低い状況が続いております。繰り返しになりますが、今年度の会費が未納の方は会費の納入をお願いします。なお、振込用紙は全員に同封しておりますので、最終の入金年月日を封筒の宛名シールでご確認ください。すでに今年度の会費を納入いただいている方へは、お知らせと振込用紙が繰り返しになることをご容赦ください。

**●えんころびい編集委員会からのお知らせ**

会誌『えんころびい』第75号は、秋の研究集会の発表原稿を待って発行する予定です。そのため、一般の投稿受付を10月末まで延長致します。どうぞよろしくお願い致します。  
(『えんころびい』編集委員会)

**編集後記**

今号では2013年秋の研究集会のプログラムを掲載しております。みなさまのお手元に届くのが直前となり申し訳ありません。会場となる教室は、当日にご案内致します。その他、秋の研究集会について不明な点がございましたら、学会までご連絡ください。

世話人会を含め、会員のみなさまの積極的なご参加お待ちしております。

(『えす』編集担当世話人・山見拓)

エントロピー学会

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋町 515-1 電話：075-708-8063 Fax：075-708-8062

郵便振替番号：00950-5-187041 e-mail：office-k@entropy.ac